

令和3年度 行田こども園 自己評価分析と今後の課題

1. 対象者

保育職員15名（内訳：正規職員9名、パート職員6名）

2. 方法

「教育・保育の計画性」「教育・保育の在り方、幼児への対応」「保育の在り方、3歳未満児への対応」「保育者としての資質や能力・良識・適性」「保護者への対応・守秘義務」「地域の自然や社会との関わり」「保育者の専門性」の7つの大きな評価項目より、当法人の理念や方針を考慮して計106個の評価項目を作成した。（別紙参照）

3. 評価・分析方法

「1 よくできている」「2 まあまあできている」「3 あまりできていない」「4 まったくできていない」の4段階で回答を求めた。また、集計した回答について基本統計処理を行い、その結果をもとに園内研修にて話し合い、今後の課題について話し合った。

※対象者が少ないため、分析結果はあくまで傾向とする。

4. 結果

I. 教育・保育の計画性（1：25%，2：61%，3：14%，4：0%）

86%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 方針・理念を保護者に伝えきれていないところがある。
- ② 5領域や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」への理解を更に深めていく。
- ③ 他クラスの教育・保育を観察する時間を定期的・継続的に設け、方法や関わり方の意図を共有していく。
- ④ コロナ禍で異年齢保育や進級に向けた交流機会が少なくなってしまった。他クラスの職員同士で情報共有を密に行い、子ども達が円滑に進級できるように教育・保育の計画を立てていく。

II. 教育・保育の在り方、幼児への対応（1：30%，2：51%，3：19%，4：0%）

81%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 1年の教育・保育の中で、子どもたちの成長・発達をいかに促していけるかを日々共有しながら連携して関わっていく。
- ② 子ども一人ひとりとしっかり向き合い、丁寧に対応していく。
- ③ 肯定的な声掛けや「先褒め」の声掛けを習慣化し、子どもが主体的に行動できるようにする。

III. 保育の在り方、3歳未満児への対応（1：49%，2：39%，3：12%，4：0%）

88%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 昨年度に引き続き、自分の気持ちを表現する力が十分でない子供の気持ちを汲み取るための援助で、不十分なことがあった。子ども達一人ひとりの性格理解が深められるよう、日々の話し合いを大切にしながら、環境を整えつつも臨機応変な対応ができるようにしていく。
- ② 子どもが主体的に遊べる活動をたくさん取り入れ、自分で考えて行動する力を養ったり達成感・満足感が得られたりできるように環境を整えていく。
- ③ 子ども一人ひとりの成長段階を保育者間で共有することを前提として、保護者とも情報共有をしながら、協力して教育・保育を行っていく。

IV. 保育者としての資質や能力・良識・適性（1：35%，2：46%，3：19%，4：0%）

86%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 常に「これで良いのか」と考えながら、他の職員と意見の共有・連携して教育・保育を行う。
- ② 優先順位を考え、計画的に業務を行っていく。
- ③ 保護者と深い信頼関係を築いていけるよう、まず子どもをよく見ていく。その上で、子どもの園での様子を伝え家庭での様子も共有していく。
- ④ 昨年度に引き続き、子どもの手本となれるよう、日々の自分の言動を振り返り、改善していく。

V. 保護者への対応・守秘義務（1：45%，2：38%，3：18%，4：0%）

83%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 保護者の方と友達同士のような話し方をしてしまう時があった。話し方について、一人ひとりが十分に意識し、気付いたときはお互いに声を掛け合えるように努めていく。
- ② 保護者と一段踏み込んだ話（家庭での養育方針など）ができるよう保護者の話をよく聞き、保護者の気持ちに寄り添うことを大切にしていく。
- ③ 配布物の事前確認を徹底し、事後訂正が無いようにしていく。

VI. 地域の自然や社会との関わり（1：34%，2：46%，3：19%，4：2%）

80%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 昨年度に引き続き、コロナ禍のため、地域の人と関わるのが少なくなってしまった。（地域の方々、実習生、ボランティア 学生等）コロナ禍でもできることを考えつつ、収束したらより良い環境が整えられるよう努めていく。
- ② カブトムシを幼虫から育てたり、フナ釣り・ザリガニ釣りなどの体験を取り入れたりしながら、子ども達が自然の生き物に親しめる環境を整える。
- ③ 昨年度に引き続き、コロナ禍のため、収穫した野菜でクッキングをすることができなかった。クッキングが行える環境を検討し、次年度こそ可能な範囲で子ども達とクッキングを行っていく。

VII. 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度（1：21%，2：59%，3：20%，4：0%）

80%の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課題】

- ① 自己啓発はもちろん WEB 研修や園内研修を通して、自身の課題と向き合い、達成できるよう常に学び続ける。
- ② 園舎や園庭、園周辺の自然環境を活かした教育・保育を行っていけるよう、知識を深めていく。